ある日、森の中

ヒグマさんに

出遭ったら、どうしますか。

ヒグマを近づけない、ヒグマに遭わない、ヒグマに遭ったときに被害者にならないために

札幌方面手稲警察署

ヒグマとは

食肉目　クマ科　ヒグマ属
日本では北海道内のみに生息

- 体長　オス：約２メートル、メス：約１．５メートル
- 体重　オスの成獣：150～400kg　メスの成獣：100～200kg
- 視力は人間程度だが、嗅覚、聴覚が優れている
- 走る速さは最大で時速約50km
- 泳ぎも得意

身体能力が非常に高いので、格闘しても勝ち目はありません。

小熊でも車のフロントガラスを簡単に破壊します

被害に遭わないためには

ヒグマを近づけないこと
ヒグマに近寄らないこと

が一番大事です

ヒグマを近づけないために

- 餌となるものを与えない
- 存在を知らせる
- ヒグマの痕跡を見つけたらその場から離れる
- 草刈りはこまめに実施する

餌となるものを与えない

ヒグマは雑食性です

人が食べるものはヒグマも食べることができます。

山の中に出かけた際に、食べ残しなどは絶対に捨てないようにしましょう

結果的に、ヒグマに人間の食べ物の味を覚えさせることになり、人間に近寄ってくるきっかけを作ることになります。

ゴミ捨ての時間を守りましょう

生ゴミのにおいを嗅ぎつけたヒグマが近寄ってきて、人間の食べ物の味を覚えると、人家近くにヒグマがやってくるようになり非常に危険です。

野生のヒグマに出遭っても、絶対に餌付けしないでください

知床など、自然の豊かな場所では、ヒグマが人里近くに現れ、人とヒグマの距離が非常に近くなります。

このような場合でも、餌付けは絶対にしないでください。

餌付けにより、ヒグマが人間の食べ物の味を覚えたり、人間に近づくと餌をもらえるということを学習することになり、非常に危険です。

また、子グマは体も小さいので、警戒心も薄れがちになり、餌をあげたくなる方もいるかもしれませんが、子グマのそばには親グマがいることが多く、子グマを守ろうとして親グマが突然攻撃してくる危険性があります。

存在を知らせる

ヒグマは耳が良く聞こえます

　人の存在を音で察知して、ヒグマの方から人間を避けてくれることがほとんどです。

音の出るもので人間の存在を知らせましょう、ただし過信は厳禁

　一般的に、ホイッスル、熊鈴、ラジオ等、音の出るもので人の存在を知らせることにより、ヒグマが近寄ってくるのを防ぐ効果があると言われますが、人が捨てた食べ残しなど、人由来の食べ物の味を知っているヒグマは、「音＝人間が近くにいる」と学習している可能性もあり、逆にヒグマが近寄ってくる危険性もあるので、ホイッスル等の効果を過信しないようにしてください。

ヒグマの痕跡を見つけたらその場から離れる

痕跡がある＝近くにいる可能性が高い

フンや足跡は、そう遠くない過去にヒグマがそこにいたということを意味します。

痕跡①　フン

専門的な知識がないと、ほかの動物の糞と見分けるのは困難ですが、あまり臭くなく、食べたものがそのまま排泄されると言われています。

痕跡②　足跡

足跡も、フンと同様に、専門的な知識がないと見極めが困難ですが、前足の横幅が14cm以上だとオスの成獣、6cm以下だと０歳というように足跡の大きさでおおむねの年齢や性別が判断されます。

痕跡③　何かを埋めたような場所

ヒグマは、食べ残しを土中に埋めて保存する習性があるため、土を掘り返して何かを埋めたような場所があれば、そこはヒグマが食べ残した動物の死骸等を埋めた場所である可能性があります。

そういった場所に不用意に近づくと、ヒグマに「食べ残しを奪いにきた敵」と見なされ、攻撃を受ける危険性が高くなります。

草刈りはこまめに実施する

ヒグマは身を隠しながら移動します

草むらや笹やぶは、ヒグマにとって身を隠すのに最適な場所です。
また、ヒグマの餌となるフキなどが生い茂っている場所も、餌を求めてヒグマが現れることがあります。

草刈りはこまめに実施しましょう

近年、市街地にもヒグマが出没するようになってきていますが、川沿いの草むらなどは、山間部で生息するヒグマが身を隠しながら移動するためには最適なルートと言えます。
ヒグマのオスは年間数百キロメートル、メスは数十キロメートルの範囲を移動することに加え、人を恐れない若いヒグマが増えているため、身を隠しながら移動するうちに、市街地に迷い込むということも考えられます。
一度市街地に迷い込むと、ヒグマは逃げ場所がなくなり、パニックになる可能性が高くなります。
ヒグマの生息域と市街地とを結ぶルートを作らないようにしたり、人家近くにヒグマを近づけないようにするためにも草刈りはこまめに実施しましょう。

ヒグマに近よらない

- 餌場に近づかない
- 人に近づくヒグマの出没場所に行かない
- ヒグマによる被害の発生場所に行かない
- ヒグマによる死傷者が発見された場所に行かない

餌場に近づかない

自然豊かな場所＝ヒグマにとっては餌が豊富な場所

当たり前のことですが、ヒグマの餌は、基本的に自然の中にあるものです

ヒグマの餌は意外に種類が豊富

一般的に、ヒグマは肉食、餌といえば「サケ」「エゾシカ」というイメージが強いと思いますが、木の実やフキなどの植物や、ヒグマの大きな体とは対照的な「アリ」もヒグマの主要な餌のひとつです。

餌場①　春～沢筋、草付きの斜面
餌場②　夏～オオブキが生い茂る沢沿い、アリの巣が集中する場所
餌場③　秋～木の実や果実の実る場所、サケ・マスの産卵河川

山菜採りや渓流釣りの場所は、ヒグマの餌場とも重なることがあるので、注意してください。

人に近づくヒグマの出没場所には行かない

人に近づく＝人に近づくと餌にありつけると学習しているか、人を恐れていない

　これまでは、人を恐れて近づいてこないと言われていましたが、近年は、人の姿を見ても逃げ出さないなど、人を恐れないヒグマもいます。

　また、一度人間の食べ残しなどの味を覚えたヒグマは、逆に人に近づいたり、人と出会っても離れないことがあります。

人に近づくヒグマの出没場所の情報を収集しましょう

　ヒグマの出没情報は、テレビ、新聞、ラジオのほか、インターネットでも入手可能です。

　同じ場所に繰り返しヒグマが出没する場合、その付近を行動範囲としている個体がいる可能性があるので、山に入ることが多い方は、こまめにヒグマの出没情報を確認してください。

ヒグマによる被害の発生場所には行かない

ヒグマによる被害＝人的被害だけではありません

　ヒグマによる被害といえば、人が襲われるということをイメージするかもしれませんが、果樹園などに現れて作物を食い荒らしたり、飼育されている牛などの家畜を襲ったり、建物などを壊したりすることも当然ヒグマによる被害に含まれます。

　被害が確認されるということは、人間の行動範囲とヒグマの行動範囲が重なっているということであり、そのような場所ではいつヒグマに遭遇してもおかしくないと言えます。

「自分は大丈夫」という考えはヒグマには通用しません

　ヒグマの被害が確認された場所は、すでにヒグマの行動範囲の中に含まれています。

　そのような場所に行ってヒグマに遭わないで済んだというのは「たまたま遭わなかった」というだけです。

　ヒグマのような野生動物は、時として予想もできない行動をとります。

　危険な場所には近づかないことが大事です。

ヒグマによる死傷者が発見された場所には行かない

死傷者が発見された＝人を攻撃するヒグマ＝極めて危険な状況です

ヒグマによる被害の中で最も危険なのは、言うまでもなく人間に対する攻撃です。

人身被害のあった場所に現れるヒグマは、既に人間を襲っている個体であり、人間を敵や餌と見なしている可能性が極めて高いといえます。

特に、ヒグマによる食害が発生している場所では、ヒグマは近づく人間を餌と見なして攻撃してきます。

また、食害に遭った可能性の高い被害者が発見されていない場合、付近に食べ残した身体の一部を埋めている可能性があり、そういった場所に近づくことにより、ヒグマに「餌を奪いに来た敵」と見なされる危険性も非常に高くなります。

「自分は大丈夫」
ヒグマには絶対に通用しません

もしヒグマに出遭ってしまったら

大声を出さない

- 大きな音は、ヒグマを驚かせ、攻撃を受ける可能性があります。
- 大声を出すと、かえってヒグマが興奮します。

背中を向けて走らない

- 背中を向けて走るとヒグマが追いかけてくる危険性があります。
- ヒグマは背中を向けて逃げるものを追う習性があります。

目を離さない

- ヒグマから目を離さず、ゆっくりと後ずさりしながら少しずつ離れます。
- 刺激せず、徐々に距離をとることが大事です。

もしヒグマに出遭ってしまったら

奪われたものは取り返さない

- ヒグマは、一度手に入れたものは自分のものとして執着します。
- 取り返そうとすると、攻撃されます。

自分から攻撃しない

- ヒグマの身体能力は人間を大きく上回っているので、人間から攻撃しても、攻撃を誘発するだけです。

それでも近づいてきたら

- 熊撃退スプレーを噴霧し、それ以上近づかせないようにしましょう。
- 噴霧する際は、風向きに注意して下さい。

それでも攻撃してきたときの最後の手段は

- 持ち物を投げて、ヒグマの気をそらす
  （ただし、投げた物は絶対に取り返さない）
- 姿勢を低くし、うつ伏せになり後頭部と首を守る
  （あらかじめヘルメット等を用意しておくと役に立つ）
- 熊撃退スプレーをヒグマの顔面めがけて噴射する
  （風向きに注意）

ことなどが有効と言われています。

ヒグマと警察活動

サイレンを鳴らすと、ヒグマがびっくりして逃げるように思えるけど、サイレンみたいに大きな音は、逆にヒグマを興奮させてしまう危険性があるから、サイレンは緊急の場合以外鳴らさない方がいいんだよ。

ヒグマにあったら、パトカーのサイレンを鳴らせば追い払えるんじゃないかと思うんですが、どうでしょうか？

サイレンを鳴らすことで、ヒグマを興奮させ、人家がある場所などでは思いもよらない動きを誘発する危険性があるので、ヒグマの出没現場で安易にサイレンをならすことはできません。

サイレンでヒグマが山に戻るとは限らない

ヒグマと警察活動

拳銃の攻撃力＝０に近い

ヒグマの体は厚い皮下脂肪で覆われているし、骨も頑丈だから、ヒグマに拳銃の弾が当たっても致命傷になるようなダメージを与えることはできないんだよ。むしろ、「手負い」といって、怪我をした状態になるから、逆に攻撃されることもあるよ。

警察官は、拳銃を持っているから、ヒグマが向かってきたときは、拳銃を撃てばヒグマを倒せるんでしょうか？

ヒグマの体に致命傷になるようなダメージを与えるためには、ライフル銃のように威力のある銃を使用して、急所を狙う必要があります。
警察官がヒグマに向かって拳銃を撃っても、弾が皮下脂肪で止まったり、中途半端な傷を与えて、ヒグマを凶暴化させるということにしかなりません。

ヒグマと警察活動

猟銃があってもすぐには使えない

ハンターの人だからといって、簡単に銃を撃つことはできないよ。
緊急性があるとか、銃を撃っても周囲の安全が確保されるとか、いろいろな条件をクリアしてはじめて銃を撃てるんだよ。

警察官の拳銃が使えなくても、猟銃を持ったハンターの人は街中で撃つことができるんでしょうか？

ハンターの人が銃を撃つためには、さまざまな要件が必要であり、目の前にヒグマがいるというだけでは銃は撃てません。
例えば、住宅街などでは、流れ弾などが周囲の人や物に当たる危険性は非常に高くなるため、安全が確保できず、銃は使えないということになります。

ヒグマを見かけたときは

1　まずは安全な場所に避難してください。けがをした人がいればすぐに救急車を呼んでください。
2　安全な場所に避難したら警察に通報してください。
3　通報の際は、

- 「いつ、どこで」目撃したのか
- けがをした人や物的な被害はあるのか
- 見かけた場所はどのような場所か
- ヒグマそのものと思われる動物を見かけたときは
  頭数・体長・どんな動きをしていたか・どちらに行ったか
- フン・足跡・爪痕を見かけたときはその種類・数・あった場所
- 通報者の方のお名前や連絡先、目撃した人との関係（本人・頼まれ）

等について警察官が確認します。